

みの〜れと出逢い、輝き出した私の人生



フォトグラファー／四季文化館企画実行委員

なめ かわ みづ ほ
滑川 瑞穂さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.189

雨が似合う花、色鮮やかな紫陽花の季節がやってきました。みの〜れのこんもりした森に優しい雨が降る日は雨音も心地よくて、傘をさしてのんびりと散歩するのも楽しいです。今回は、フォトグラファーであり、四季文化館企画実行委員会委員を務める、小美玉市西郷地にお住まいの滑川瑞穂さんを紹介します。

幼少期の記憶 喜びが原動力

人物撮りを得意とするフォトグラファー。「父親が家族写真を撮るたくさん撮影してくれて、私が生まれた時から成長記録アルバムは何冊もあります」と滑川さん。アルバムをめくるたび、色鮮やかに思い出す楽しかった日々。宝物として大切に保管してあるそうです。「私も家族が撮ってきたたくさん写真を撮ってあげたい、という気持ちがこの仕事を目指した理由の一つ」と語ります。

都内の専門学校を卒業後、齊藤佳代子氏に師事し、その後独立。長年のブライダルフォト経験を活かし、現在は七五三や成人式、フォトウェディングなどロケーション撮影を中心に活動中。「小美玉には、四季折々の草花やきれいな水辺、木漏れ日とそ

よ風が心地よい素敵なロケーションがたくさんあります」と教えてくれました。

昨年度から、みの〜れの運営を司る四季文化館企画実行委員会委員に就任。「たくさんの方の住民がこんなにも深く関わって運営してる仕組みだと知りました」。みの〜れに関わる人が増えていくよう、委員同士で新たな仕組みや仕掛けを話している」といつい時間忘れて夢中になっちゃうんですよね」と笑う滑川さん。みの〜れに関わるようになって、人前で自分の意見が言えるようになったそうです。「みの〜れに関わったことで私の人生が輝き出したと感じています。仕事以外のつながりが広がっていることに感謝しています」と話してくれました。

4月に開催された小美玉さくらフェスティバルの実行委員も務め、みの〜れに関する市内のクリエイターたちに

呼びかけて「アートなお仕事体験」を立案。子どもたちが主役になって楽しめる企画がヒットし、会場内は入りきれないほどの大盛況でした。滑川さんが担当するブースは子どもたちがカメラマンになりきって家族写真を撮影。「子どもたちが撮った写真を整理していると、シャッターを押す子どもたちの楽しそうな表情が伝わってきます」とにっこり。「私の娘もいろんなお仕事を体験することができて喜んでいました。母も『大成功だったね』と言ってくれています。今度は晴れた日にやってみたいですね」。

みの〜れ近くのあずまやで、娘が生まれてから毎年桜の季節に写真を撮っているそう。「子どもたちの写真とロケーションの写真が好き。これからも成長を撮り続けていきたい」と語ってくれました。(藤田佐知子)